

とわってい

สมาคมมิตรภาพ ไทย-ซาอีตตามะ

2005年5月
12号

埼玉・タイ王国友好協会会報

発行

埼玉・タイ王国友好協会事務局
〒350-1192 川越市山町32-12
武州ガス棟内 ☎049-247-5428

埼玉王



▲前方が男子用、後方が女子用寄宿舎。ベッド、シャワー、ロッカーも備え、太陽光発電も取り入れた鉄骨モルタル造りの近代的な建物です。



▲これまでの寄宿舎。夜の気温は3度前後になるのに竹で囲んだだけの建物だった。

親善訪問団、竣工式に出席 寄宿舎2棟が完成

当協会が教育関連施設建設事業として、タイ王国メーホンソン県のバン・クッド・サムシブ校に建設を進めてきた寄宿舎2棟が、本年一月末に完成しました。昨年七月に調印式を行い、十月より建設していたもので、二月九日メーホンソン市内のホテルで竣工式が行われました。

この完成に合わせて当協会主催の第四回友好親善訪問が実施され、原会長夫妻を始めとする二十名が参加しました。一行は竣工式に出席、翌日は同校を訪れ、寄宿舎を見学しました。同校まで二時間半の道のりには大変な悪路もありましたが、一行は疲れを忘れさせる温かく熱烈な歓迎を受けました。



▶テープカットをする原会長。頭上の看板には感謝の言葉が書かれている。



▲寄宿舎の前で同校関係者と親善訪問団の皆さん



▲仲良しさん

熱烈盛大な歓迎に感激 本事業の成功を確認

会長 原 宏



▲竣工式でシティチャイ・プラサート副知事に寄宿舎の模型を手渡す原会長

二月九日、この日は私にとつて生涯忘れられない日となりました。竣工式の翌日、完成した寄宿舎を見ようとバン・クッド・サムシプ校を訪れた私たちは、思いがけず熱烈盛大な歓迎を受けたのです。このとき私は設立時からの念願であったこの教育施設建設事業が成功したことを確信致しました。ゴースルメーホンソン県教育長は、私達の訪問に合わせて県内の校長先生を百八十名以上集めてセミナーを開き、そこでもこの事業の報告をされたということでした。素直な子供たちの笑顔は今も胸に焼き付いております。

本事業は、皆様の会費を毎年積立ててきた資金に(財)埼玉県国

際交流協会様からの助成金五十万円を加え、その資金としました。調査から完成までのこの一年間には、西條副会長と事務局が六回の現地訪問を重ねました。この間ランブーン新電元の佐藤社長、タイ新電元の安江社長には大変なご協力をいただきました。ご両名に対し、深く感謝申し上げます。そして何より本事業に対し会員の皆様より深いご理解とご協力をいただきましたことは何よりの励みでございました。改めまして、厚く御礼申し上げます。

本年度は次なるステップに向け新たな気持ちで事業を進めてまいりたいと思えます。会員の皆様には変らぬご支援ご協力をお願い申し上げます。



▲会長夫妻の案内をする生徒達。

大きく前進

埼玉草の根外交!

副会長 西條正和



▲竣工式で生徒代表に記念品を渡す西條副会長

この度会員の皆様のご支援の下、五年越しの計画でありましたタイへの教育施設の寄贈という大きな事業を完成させ、タイ北部にその足跡を残す事ができましたことは「草の根外交を促進する」という我々協会の理念を大きく前進させ、大変喜ばしい事であり、この竣工式に多くの協会の方々と共に立ち会うことが出来たことは生涯忘れずの事は出来ないと感じています。

協会として始めての大事業が成功裡に進みましたのは原会長が自ら率先して奥深い山奥まで足を運んでいただき、会員皆様と一体になったご理解の結果であり、これらがメーホンソン県挙げての感謝と歓迎に結びつき、大きな感動となつて還つて来たものと確信しております。

また我々は今回の事業が一教育施設の寄贈という行為に留まらず一つの村の文化を大きく変えることに結びついたという事も知りました。この村の子供達は日本の埼玉

玉をきつと将来も忘れない事でしょう。今回の成功をベースにこれを一通過点とし、続く事業計画を策定し、しっかりと「草の根外交」を促進して行くではありませんか。

出会えて良かった

幹事 前島静頭

私がこの親善訪問で一番強いインパクトを受けたのは、寄宿舎の訪問で出会ったリス族の人々でした。これまで何度かタイ王国を訪れていますが少数民族である山岳民族の人達に会ったのはこれが初めてで、大人も子供も純真、無垢で大きな感激、感動を覚えました。

どんな考え方、生き方をしているのだろうか。医師という職業柄、平均寿命は?、医療体制は?、救急体制は?、等々も気になりました。電灯が付き、パソコンが使用できるようになった事で、全国の、さらに世界中の情報が入るようになって人々の暮らしや心持ちがどう変わっていくのかも気にかかります。



▲これまでの寄宿舎の中を見てびっくり。左端が前島幹事

それにしても、現地に向かう車中より目にした山焼きの光景も不思議でした。防火帯のようなものも人影もないのに、山肌が広範囲に燃えていて、山火事にならないのだろうか。

こうして今回の私の親善訪問は、私のタイへの興味、関心を更に高める結果となつたのでした。

感激を歌に

吉沢文子

- 今回のメインイベント竣工式は大勢の要人参加で大成功
- 四駆の車四台に分乗霧の朝山岳悪路含めて登り三時間
- 現地では大歓迎で迎えられセレモニーの後は輪になってダンス
- 言葉なくも心と心のつながりは涙と感謝の超物語り
- 偶然にタイで迎えた結婚記念日四五回目祝福されて感無量
- 北部タイ文化交流祭に参加して日・タイ交流肌で感激
- 今回の旅行の全てを振り返り感動のまま帰路成田へと



▲土屋名誉会長から結婚記念日の祝福を受ける吉沢さん。

第一回北部タイ文化交流祭に会長ら出席 土屋名誉会長が来賓として挨拶



▲挨拶する土屋名誉会長

二月十一日、昨年三月に開設された在タイチェンマイ日本国総領事館主催の「第一回北部タイ文化交流祭」がチェンマイ市内のパヤップ大学で開催され、当協会名誉会長である土屋前埼玉県知事が来賓として招待され、挨拶を述べました。当日は友好親善訪問団として訪問中の原会長夫妻ら数名の関係者、会員も招待され出席しました。舞台ではタイの音楽や踊りと共に、現地に滞在する日本人らによる日本の童謡や唱歌、日本琴の演奏や日本舞踊、茶道などが紹介されてきました。

ピサデート殿下、スワット・チェンマイ県知事、ブンラート・チェンマイ市長、並びにご列席の皆様、本日、第一回の「北部タイ文化交流祭」に来賓としてお招き頂き、大変嬉しく、また、光栄に存じます。

今回の文化交流祭は総領事館設立以来1周年を記念し、北部タイの人々と在留邦人との一層の交流をはかるための初の大型文化事業と伺っております。私事に亘り恐縮ですが、私も1965年に国会議員に当選以来今日まで40年間、参議院議員、閣僚、参議院議長、さらには埼玉県知事として、一貫して我が国とタイ王国との関係、即ち、皇室・王室、両国政府及び両国民の間に至るまでの友好・親善関係の増進につとめてまいりました。そして今日、北部タイの伝統と産業の中核都市であるチェンマイにおいて、このような両国民が直接ふれあう文化行事が開催されるに至ったことを心から歓迎したいと存じます。

本日は、この会場で私の尊敬する年来の友人ピサデート殿下もお見えになって頂いております。殿下とは、かれこれ10年程のお付き合いになり、相互に自宅を訪問しあう仲ですが、今朝、久しぶりにお会いし、旧交を温めたところでございます。

思えば1997年5月に、我が埼玉県にシリキット王妃陛下にお出ましただき、拝謁を賜っております。

1999年1月に、チェンマイ訪問の折、ブーピン宮殿にシリキット王妃陛下を訪ねさせていただきました。更に、1994年11月、「ジャパン1RR1デイ」に出席の際、本県に御来県賜りましたシリントーン王女に、来る2月14日にチットラグ宮殿において、拝謁を賜ることになっており、誠に身に余る光栄、感激の至りであります。

私のタイ訪問は今回で7回目になります。訪問するたびにタイ王国が着実な発展を遂げ、益々魅力ある国家になっていることに敬意を以て見守っておりますが、今回、チェンマイを再訪し、北部の発展振りを再認識したところでございます。

我が国とタイ王国は、共に皇室・王室を戴き、数世紀に及ぶ交易・交流の歴史を有し、尊敬しあうアジアの友人として友好を深めて参りました。この伝統的な両国民の友好の絆が今回の文化交流祭を通じて更に北部地域に広がっていくことを期待しております。

私が提唱して、設立されました埼玉・タイ王国友好協会の原会長ご夫妻も、この席にお見えになっておりますが、この度、メーホーソン県に次の時代を担う子ども達のために、寄宿舎を寄贈されました。

これからも私たちは、タイと日本、埼玉とタイ、世界の平和のために努力いたして参ります。

ご静聴ありがとうございました。

土屋名誉会長挨拶文

スマトラ沖地震被害に対し 250万円を支援



▲シリントーン王女に義援金を手渡す土屋名誉会長。これは地元メディアで紹介されたテレビ映像の写真で、3月1日付け埼玉新聞より転載したもの。

昨年十二月に起きたスマトラ沖大地震はタイ南部にも大被害をもたらしました。そのため、本年一月当協会会員に対して見舞金の協力を呼びかけたところ、法人、個人会員より合わせて二五〇万円もの義援金が集まりました。

その内の百万円はタイ王国親

善訪問の際に、当協会名誉会長である土屋前知事が、チットラグ宮殿を訪れ、シリントーン王女に直接手渡しました。また、残り百五十万円は、三月一日に原会長、西條副会長らがタイ王国日本大使館を訪ねスウィット・シマサクン駐日タイ王国大使に渡しました。



▲王室への義援金を土屋名誉会長に託す原会長。



▲スウィット・シマサクン大使に義援金を手渡す原会長ら。

タイにアクセス

駐日タイ王国大使より礼状

タイ南部のスマトラ沖大地震被害に対する当友好協会の支援に対し、3月11日、スウィット・シマサクン大使より、原会長宛てに礼状が届きました。日本語訳は下記の通りです。

原様

昨年12月26日にタイ・アンダマン海沿岸の州にて多くの命を奪った津波大惨事につき、会長様には3月1日にタイ大使館までわざわざ足をお運びいただき、誠にありがとうございました。


また、埼玉・タイ王国友好協会様より、想像を超える悲劇の犠牲者となった方々に対し、150万円の義援金を頂きましたこと感謝いたしております。

私達は多くの命―特に日本人の方々が失われたことを大変残念に思っております。又、この度は世界中より援助をいただきましたことに、とても感謝しております。特に日本からは即座に寛大なるサポートをいただきましたことは、長く記憶に残ることでしょう。

今年、2005年は、復旧・協力・治癒の年としたいと思っております。

皆様のご多幸をお祈り申し上げますとともに、このたびの援助が津波災害の犠牲者すべての方の復旧、復興に役立つよう願っております。

礼状



ROYAL THAI EMBASSY
TOKYO

11 March 05 P 2548 (2005)

No. 2005/946


Dear Mr. Hara,

I wish to express my deepest thanks and appreciation to you for personally coming to the Royal Thai Embassy on 1 March 2005 to express condolences and sympathy for the immeasurable losses caused by the tsunami which struck the Thai coastal provinces bordering the Andaman Sea on 26 December 2004.


I wish to also acknowledge the receipt of the contribution of the sum of one million and five hundred thousand Japanese Yen from the members of the Saitama-Thailand Friendship Association to assist the victims of this unimaginable tragedy.

We are most sorry for the losses of lives, especially of Japanese nationals. We are also very deeply touched by the expression of support from throughout the world, particularly from the Japan, whose prompt, thoughtful and generous support shall long be remembered.

We hope that 2005 will be a year of recovery, cooperation and healing. Our best wishes and support goes to the recovery and rehabilitation of all victims of the tsunami disaster.

Yours sincerely,

(Suwit Simasakun)
Ambassador

Mr. Hiroshi Hara,
Chairman,
Saitama-Thailand Friendship Association,
SAITAMA.



スウィット・シマサクン大使

会員 VOICE これからも見守って



吹上町 長尾美津子さん

7、8年前からガールスカウトの活動で何度もタイに行っています。タイでは学校の中にガールスカウトの活動があり先生が指導しています。子供達がとても礼儀正しいのが印象的でした。最初に観光で訪れたタイはきれいで、懐かしげで素敵な国という印象でした。

でもこの活動を通じて山岳民族など多様な民族がいて、貧しい人達も多いことを知り、女性の自立のための支援などに携わってきました。

この会にもこうした活動が縁で入り、第3回とこの度の親善訪問にも参加しました。寄宿舎建設など素晴らしい活動だと思います。ただ建てて終わりということではなく、これからを見守る活動もして欲しいと思います。

ドイ・アンカンでもそうでしたが、子供たちの笑顔が心に焼き付いています。人々の貧しいけれど豊かな表情に元氣付けられ、私にとって日本や自分を振り返る機会にもなっています。

大使館庭で水かけまつり



▲スウィット・シマサクン タイ大使より水をかけられる原会長

今が一番暑い季節のタイでは新年を祝う伝統行事ソングラン（水かけ）まつりがこの時期行われています。これにちなんで今年も4月16日大使館庭で同まつりが開かれ、原会長ら数名が参加しました。

まつりでは年長者の手に尊敬の念を込めて水をかける風習があり、原会長は壇上に招

かれ、スマトラ沖地震被害の支援活動により招かれた大使館周辺の児童、生徒らから水をかけられていました。

当日は天気にも恵まれ、参加者は華やかな衣装のタイ舞踊や音楽、タイの料理や果物などを味わい、楽しんでいました。



▲仏像に水をかける参加者

タイ・フェスティバル2005 5月14日(土)・15日(日)

am10:00~pm8:00

代々木公園イベント広場

Ⓜタイ王国大使館

Ⓜ外務省、東京都、渋谷区

無料

タイ事務局連絡先

バンコクのUIエレクトロニクス
タイランド内
662-712-7290

編集後記

●山岳民族の子供達の表情が訪問を重ねるごとにとっても人懐かしくなっていました。

●バン・クッド・サムシブ校でファインダーを覗いていて、気が付きました。母子や子供同士の密着度が日本と比べてとても高いことに。
(M・Y)
(Y・H)